



うちで食べる人参より甘い

年長 たか1組



今年も、年長組は園庭奥にある畑で、作物を育てました。いつもお世話になっている清水農園さんへ行き、たねや苗を買わせてもらい、グループ毎に食べたいもの、育てたいものを話し合っ決めて、育ててきました。そして今年度、最後の収穫になったのが、人参でした。育てる前から、人参スティックにして食べることに、スープにして食べることを決めていました。今年は、豊作で沢山の人参を収穫することができました。大きいものから小さいもの、足を組んでいるようなものなど、いろいろなかたちの人参が出てきます。子どもたちは名前をつけながら嬉しそうに収穫していました。園庭で洗っていると、ウサギに化身した年少さんが来ました。「沢山とれたからあげるよ」と手渡し、年少さんの喜ぶ顔を見て嬉しくなった子どもたちは、次の行動を起こしました。

「ぴよぴよさんにもあげよう」。子どもたちはお迎えの時間を待って、ぴよぴよさんに葉っぱを手渡していました。「よく洗って食べてください」「お味噌汁に入れてもいいよ」など、と優しく語りかけているのが印象的でした。

クラスに持ち帰ると、人参の葉を虫メガネで観察したり、香りをかいだり、大きさを比べたりする姿がありました。気に入った人参をかいてみる中で、人参よりも葉っぱの方が長いことに気づきます。「なんでだろう?」「お日様がいっぱい当たったからなのかな?」などと話しながらえがく姿がありました。

そしていよいよ食べてみることになりました。まず人参スティックにしてみます。「甘い!」「うちの人参より、おいしい」と何度もおかわりする子がいます。次に、人参の葉を刻み、人参とバターでソテーして食べてみました。これも好評で、すぐにお皿が空っぽになるほどでした。

そして最後は、人参スープづくりに挑戦です。自分たちで皮をむき、包丁で切り、鍋でぐつぐつ煮ます。コンソメと少しの塩を入れて仕上げましたが、さて、どうだったでしょう。「ううえ、これ人参味のお湯だよ」という子もいれば、「おいしいよ」とおかわりする子もいました。「生の方が好きだな」と口々に言う子どもたちでした。自分たちで育てたからこそ大事に食べ、野菜が苦手な子も、仲間の食べている様子から一口二口と食べ進みます。調理方法によって変わる味を楽しみながら、沢山の野菜を味わった一年でした。(教諭・深田美智子)



しらうめようちえん

園だより 2022年度第7号

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2023年1月20日発行
小平市小川町1-830



ぼくのおサルさんと遊んでくる

年少 すみれ組



1学期から空き箱などの素材をテープで貼り付けて、子どもたちは「つくる」ことをしてきました。最初はとにかく貼るのが楽しくて、セロハンテープをびろーんと長く切り、貼り付けて「おしまい!」です。それだけで満足している様子でしたが、少しずつつくったものが何かに見えてきたり、自分で素材を選んでイメージを形にしたりしていこうとする姿に変わってきました。セロハンテープの長さも自分なりに考え、気づくようになってきています。

たくさん素材と触れ合いながら、「つくる」力をつけてきた頃、ある数人の子が「動物作りたい!さるが作りたい!」と思い立ちました。そのことをきっかけに、年中のきりん組で作っていたチンパンジーを見せてもらいました。まるで本物みたいに、胴体と頭、手足があるそのチンパンジーに、子どもたちは釘付けです。「こういうのがいい!」となって、お部屋に戻ってさっそく作り始めました。まずは、新聞紙をぎゅーっと潰しながら丸めて胴体と頭をつくります。次は、新聞紙をくるくると棒状に丸めて、腕や手足をつくり、それぞれをテープで貼りつけ、胴体と合体させます。この作業は地味で大変で、辛抱強くやらないと完成まで辿りつかないような工程です。それでも子どもたちは集中してその作業を続け、担任が手伝う部分もありましたが、ほとんどを自分で作り出しました。さらに、「おしりは赤くしたい」「指もあるよ」といろいろな気づきを形にしていきます。「できた!」と嬉しそうにそのサルを抱っこして見せてくれました。

それから、一生懸命、木に登らせようとしていたので、手の中にワイヤーを入れて曲げて引っ掛けられるようにしたところ、子どもたちにはこれがとても楽しかったようです。いろいろなところに引っ掛けては、ぶらーんぶらーんと遊びました。

「サルと遊んできま〜す」と、園庭に連れ出し、自分たちと同じように滑り台や鉄棒、ブランコをさせてあげたり、一緒に鬼ごっこをしたりして遊んでいます。壊れたら修理もしています。自分でつくったものに愛着が生まれ一緒に過ごす姿に、1学期にはなかった子どもたちの成長を感じました。それからは、すみれ組にはサルをはじめ、たくさんの動物たちが増えたのは言うまでもありません。(教諭・小川結花)



こどもが つくる 世界

第56回 2022.11.19(土)

年中組

「こうしたい」「これやりたい」という思いを形にしなが
ら遊んできました。その中で、自分なりに工夫してつく
ったり、衣装を身につけてなりきったり、仲間とやりとり
したりしながら、子どもたちの興味のある世界が生まれていきました。誰か
が始めた面白いことが周りにも広がり、仲間と影響し合いながら遊びが展開
しています。

好きな生き物を空き箱やペープサートでつくって動かしたり、お気に入りの
車や電車を道路や線路に走らせたり、学校や海賊船など自分たちの場でい
ろんなイメージを出したりしながら、遊びを楽しんでいます。続ける中で、
少しずつ思いついたことをつけ足したり、より面白く変化させたりしながら
遊んでいく姿があります。

年少組

4月に入園し、幼稚園でさまざまなものやこと、友だち
に出会い、遊んできました。なりきったり、何かの仕草を
したり、身体を思いっきり動かしたり、また2学期は友だ
ちと一緒に遊ぶということも楽しみの一つになりました。

「やってみたい」「面白そう」と、子どもたちの心が動き、先生や友だちが
していることに興味をもって試してみたり、友だちと一緒に取り組んでみたり
しながら、だんだんと遊びの世界がつくられていきました。

「こどもがつくる世界」当日は、子どもたちが自分の遊びを嬉々として語
る姿がとても印象的でした。自分（自分たち）でつくった遊びの世界だから
こそ、こんなにも豊かに、嬉しそうに語る事ができるのでしょう。

「こどもがつくる世界」以降も、他の学年やクラスからの刺激をもらいな
がら、まだまだ遊びの世界は続いていきます。



年長組

年長組は「仲間との探究」をテーマに、好きな世界や興味
ある世界を仲間と共に探究してきました。

遡れば3歳のころからその芽が出ていた遊びがあります。

電車が大好きな子どもたちは、本当に乗ることができる電車
を目指して試行錯誤していました。ミニチュアの世界を表現した
子どもたちもいます。遊ぶことのできる公園、高尾山、スカイツリー、そし
てそれらを取り囲むように交通網が敷かれています。小さな人形を動かしま
ながら、自分たちのつくりあげた世界で思い思いに遊んでいました。

ホールでは、当初、たか1組とたか2組がそれぞれに陣取りましたが、位
置関係や高さ、大きさを比較したり、新たに気づいたことを共有したりして、
両クラスの世界が融合していきました。「夜の世界でも遊びたい」との声に、
ホールを真っ暗にして遊びました。また、お客さんとして年中・年少のみな
さんと呼び、楽しんでもらうことができました。

どの制作でも途中でうまくいかないことや思うようにいかないことがあり
ました。一人で考えるだけでなく、クラスタイムなどで仲間と相談してアイ
デアを交換し解決策を得ながら満足がいくものをつくりあげていきました。

子どもたちは「なんでだろう？」と問いをもち、ものごとをよく見ようと
します。「手伝って」といえる関係があり、一緒に面白がりながら力を貸して
くれる仲間がいて進んでいくこともあります。好きだからこそ広がる世界、楽しいから
こそつながる世界があり、その様子はつくったものや、子どもたちの遊ぶ様子、語る言葉
にあらわれていました。考えあい、つながりあ
うことが面白くなってきた子どもたちです。

